

A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙
つくる。つながる。ひろがる。

No.42
2023年6月15日発行



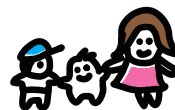
特集

協創が生む新しい解決への視点
声優×ジェンダー平等 他ジャンルだからできたプロジェクト
足立区女性団体連合会×NPO法人Pastel・Switch

トピック

- 聞きたいあなただけのストーリー Dopeeps
- センターピックアップ 一般社団法人 Freedas&Links
- 頼って!おいでよ!子育ておまかせ処 **あ★だちっこハウス実行委員会**
東綾瀬子ども食堂
- コラム スタッフのつぶやき

編集・発行 2023年6月15日 足立区 NPO 活動支援センター
〒123-0851 足立区梅田 7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進担当 TEL:03-3880-5020



あ★だちっこハウス 実行委員会

主な活動場所: 足立区西新井栄町 1-10-6
サンライズハウス 101 号室
お問い合わせ: a.dachikko.house.ec@gmail.com

みんなで作って、みんなで食べる!

活動内容

子どもと保護者が、安心して過ごせる居場所を提供することを目的に活動しています。●親子の遊び場「あ★だちっこハウス」(足立区 NPO 活動センター・年数回) ●多世代地域食堂「あ★だちっこキッチン」(西新井のレトロアパート・毎月第2日曜)

メッセージ

「みんなで作って、みんなで食べる!」をキャッチフレーズに、多世代地域食堂「あ★だちっこキッチン」を開催しています。お子さんたちにもできる範囲で、毎月調理作業の一部をお手伝いいただいています。



東綾瀬子ども食堂

主な活動場所: 東綾瀬住区センター
お問い合わせ: huniu850@yahoo.co.jp

おいしいごはんが食べられる場所

活動内容

近所のボランティアで運営し、月1回、東綾瀬で開催している子ども食堂です。現在は予約制で持ち帰りのお弁当を、2歳のお子さんから高校生までに無料で提供しています。開催情報やご予約などは写真上の二次元コードから。

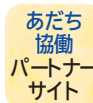
メッセージ

「食えること」に困っているご家庭や子どもたちに、温かい手作りのご飯を届けたい! お腹も心も満たして元気になってもらいたい! 毎日頑張っているママたちに、たまには休んでもらいたい! みんなの居場所になるような子ども食堂です。



「くわしく聞きたい!」
「自分も何かが始めたい!」
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?
私にも何かできるのかな?
もっといろいろ知りたい!!
と思った方は、
足立区 NPO 活動支援センターに
アクセスしましょう。



〒123-0851
東京都足立区梅田七丁目13番1号
TEL:03-3840-2331
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp



スタッフのつぶやき

令和5年度「A-PARTNERS」は、近年、増えてきている地域活動団体同士、団体と企業が連携し、課題解決に取り組む「協創」に焦点を当ててお送りします。

また足立区内の NPO 団体や区内外の企業が参加する大規模イベント「あだち NPO フェスティバル 2023」(以下、Nフェス)も同様に、個別の団体では難しい課題も当センターや団体同士で連携することで、より良い着地点を模索していきます。4月に行われた Nフェスに向けたワークショップでは「子どもと一緒に参加でき、楽しく過ごせるスペースがあるといい」「高齢者から子どもまで楽しめる工夫がほしい」などの意見が上がりました。こうした課題も知恵を出し合い、協力し合えば、より良い着地点が見えてきそうです。各々の繋がりを大切に進んでいきましょう!

(相談員: 川名)

*** 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 ***

開館日: (火)~(日)
開館時間: 午前9時~午後9時30分(月末の平日は午後5時まで)
休館日: (月)、(祝)、年末年始

特集 協創が生む新しい解決への視点

「協創」や「プラットフォーム」といった他団体同士や、企業と地域活動団体が連携して事業を行うケースが増えています。足立区女性団体連合会とNPO法人Pastel・Switchが、国際女性デーの認知度を上げジェンダー平等社会を実現するために手掛ける「国際女性デー ミモザ・プロジェクト」もそのひとつです。

声優 × ジェンダー平等 他ジャンルだからできたプロジェクト

足立区女性団体連合会×NPO法人Pastel・Switch

協創するなら他ジャンル団体がいい

片野和恵さん（以下、片野さん）が会長を務める「足立区女性団体連合会」（以下、女団連）と、大塚智則さん（以下、大塚さん）が代表のNPO法人Pastel・Switch（以下、Pastel・Switch）。この2団体は国際女性デーの認知度アップと、足立区のジェンダー平等社会の実現を目的に「国際女性デー ミモザ・プロジェクト」（以下、ミモザ・プロジェクト）を立ち上げました。

課題解決や目的のために、多様な団体が手を取り合い、活動する「協創」を、大塚さんに持ちかけたのは片野さんからです。「協創するなら他ジャンル団体がいい」というのが理由でした。女団連は、ジェンダー平等社会の推進と女性のエンパワメントを目的とした区内の団体が連携協力し活動しています。また、38年と歴史も長く、足立区や地縁団体などのコネクションも多い団体です。一方、Pastel・Switchは声優という職業を活かし、声劇の制作や発表を通じて、人と人がよりよく交流を持てるような活動をしています。SNSに慣れ親しんでいる若い世代が多く所属しているのも特徴です。

こうしたお互いのスキルや強みを活かして実現したのがミモザ・プロジェクトです。また、その一環として3月4日（土）、5日（日）にシアター1010で大型イベントを開催しました。

互いに得た上々の結果と今後

ブース出展やトークショーが企画された大型イベントの共催などで、協創した2団体は、反省点はあるものの、結果は、団体が抱えていた課題のクリアや気づきを得るという上々なものでした。例えば、以前から女団連は、主催するトークショーやセミナーに来てほしい20代・30代前半に情報や活動が届いていないことが課題でしたが、Pastel・SwitchのSNSによる拡散力でクリアできたと言います。

また、大塚さんは、女団連が企画した「ジェンダーバイアス」に関するトークショーでの話を聞き、女性を元気にする作品を作っていたかな

ければならないと感じたそうです。「女団連さんと活動することで、自団体の指針をたくさんいただいた」と、大塚さんは協創の手応えを語りました。さらに片野さんは、「女団連のコネクションを活かして大塚さんたちが活動の幅を広げていくことも協創」だと言います。そして、今後は女団連やミモザ・プロジェクトが、団体や地域が連携し、活動するプラットフォームになっていくであろうと話してくれました。

利点を見える化した女団連とPastel・Switch

大塚さんは協創について、「チャンスをいただけたら、これまでの自分たちの活動を信じて、どんどん挑戦してほしい」と言います。「自分たちだけでは実現が難しいと感じることが、他者と力を出し合うことで実現できるかもしれない」とその理由を熱く訴えます。

片野さんは、「自分の活動をしっかりと行っていくことが大事」と伝えます。「誰と行うかを考えがちですが、活動を続けることで声をかけてくれる人も現れ、自分も声をかけなくなる。自分や活動を信じて、続けていくことが協創へ繋がる」と、期待も込めて話してくれました。

若い世代の持ち味で課題をクリアした女団連。女団連の姿に自団体の指針を見出したPastel・Switch。2団体のミモザ・プロジェクトは「互いの強みを活かし、補い合う」という協創の利点を見える化した好例といえます。



「ミモザ・プロジェクト」の一環である大型イベントには30人以上もの女性起業家や経営者がブース出展などで参加した。

新規登録団体紹介

聞きたい、あなただけのストーリー

学校が苦手な子どもが集い、成長する千住の「学び舎」 Dopeeps

代表の松沼孝典さんが、「Dopeeps（ドープ）＝最高の」と、「Peeps（ピープス）＝仲間たち」という英語のスラングを掛け合わせて名付けたドゥピープス。北千住の「路地裏寺子屋ろじこや」にて、学校が苦手な子どもたちが定期的に集い、学べる「学び舎」を松沼さん含む3人の構成員のほか、区内の大学に通う学生ボランティアたちと運営しています。

子どもたちが実行する力を持つ工夫

「学び舎」は2023年1月にスター

トしました。それまで千住地域には学校に行きにくい子どもたちを受け入れる場所がなく、他の地域へ通うしかありませんでした。PTA会長や子ども食堂などのボランティア経験を通じ、そのことを知った松沼さんは、活動を開始しました。

現在の開催日は毎月第1、第3水曜日の月2回。小・中学生くらいの子どものが5名ほど通っています。学習支援のほか、感受性を育むため遊びやアート体験などを取り入れています。

また、子どもたちが自分で考え、実行する力を持つことにも注力し、社会問題について子どもたち自身が考え、グループディスカッションを行うのが学び舎の特徴です。

安心して失敗できる場を

松沼さんは、助成金だけに頼らない自走持続可能な団体作りや学生ボランティアの育成などを課題に上げながら、「子どもたちが自信を持って社会に出ていくサポートをしていきたい」と言います。そのためには他団体との情報共有や協創も必要だそうです。

子どもたちが様々なことにチャレンジし、安心して失敗できる場。それがDopeepsです。



代表の松沼孝典さん

注目の活動

センターピックアップ

目が不自由な方が新しい世界を発見する支援 一般社団法人Freedas&Links

障がいのある無に関わらず、誰もが自由に人と繋がれる社会の実現を目指すという想いで立ち上げられた一般社団法人Freedas&Links。当団体は視覚障がい者の外出にガイドヘルパーがサポートする「同行援護」に関わる活動を行っており、ガイドヘルパーのマッチングを行う事業所「コンパスガイドステーション」の運営や音声解説付き映画会、イベントを開催しています。

視覚障がいの方の外出には危険が伴います。白杖を利用し、ひとりで歩く方を見かけたら、「信号が青ですよ」と、声をかけるだけでも充分。お困りの方を見かけたら声をかけをお願いします。



「見守っている」という気持ちが支援になります。